

仮設廻り・村民の声を発信とこの2年の思い

飯舘村 村民 酒井 政秋

2011・3・11pm2:46 東日本大震災発生。

あの日から、私、私たちの日常は一変しました。原発事故による大量の放射能物質が雪と共に飯舘村に降り注ぎました。

そして、ようやく仮設住宅が完成したのは2011年7月、そして仮設住宅への避難したのが7月31日でした。仮設住宅での暮らしは、隙間風、雨漏り、そして隣や外の物音が丸聴こえというプライバシーも守られずストレスの溜まるものでした。そこで、私は他の仮設住宅ではこのような問題がないだろうか、塞ぎ込んでいないだろうか気がかりになり、細々と私の行動できる範囲で仮設への聞き込みに行こうと思い、ベンチで休んでいる方、自治会長などのお話を聞いたりしました。どこの仮設住宅でも個々の問題は山積しており、とても深刻な問題でした。自治会長とお話をして本当に困っている事を村役場へ出向き様々な要望を対策本部と相談させていただきました。

仮設廻りをしているうちに、全国では段々、飯舘村の事、また、福島のことを風化しているなど考え、今まで聞いた「村民の声」を発信していこうかと思えばログやホームページで発信したり、県外で頼まれればお話をさせていただいたり飯舘村を案内して生の現場を見ていただき感じていただいたりしてきました。私たちは、まだ1歩も踏み出せないまま、2年が過ぎてしまいました。年配者の多くが2年で帰れると信じ避難をしてきたのに、いつのまにか時だけが過ぎ、3年目を迎えることとなりました。そして、除染の不透明さ、いつ終わるか分からない見当もつかない先の見えない日々が続いております。私たちは、行政・国にお願いするのは、村民一人一人に寄り添った復興をお願いしたいだけなのです。そして、先の見えない避難生活から早く抜け出し、高齢者には安住した老後生活を。また、心から笑える日々を送らせてあげたいそう願います。

若い人たちにも、特に子供に対する健康。医療の一生涯の補償をちゃんと制度として確立してほしいです。

私たちは誰も争いなど望んでいないと思います。話し合い・コミュニケーションを村民同士がお互いを理解する努力をしながら乗り越えていきたいそう思います。この3年目はちゃんと先の見える復興案を出してほしい。それを切に願います。私自身も今年は自分にとっての1歩を歩みたいです。これからも飯舘村の事を忘れないでいてください。よろしく願いいたします。

※ホームページ「飯舘村の1人1人の思い～伝えたいメッセージ～」:

<http://iitatemessege.jimdo.com/>

